

プレスリリース
平成23年1月19日
宇宙航空研究開発機構
三菱重工業株式会社

Ｈ－ＩＩＢロケット2号機による 宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機(HTV2)の打上げ延期について

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、種子島宇宙センターから宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機(HTV2)／Ｈ－ＩＩＢ ロケット2号機(Ｈ－ＩＩＢ・F2)の打上げを平成23年1月20日15時29分19秒(日本標準時)に予定しておりましたが、打上げ時刻において打上げ制約条件を超える氷結層を含む雲(別紙参照)の発生が予測されることから、打上げを1月22日以降に延期いたします。

なお、新たな打上げ日時については決定次第お知らせいたします。

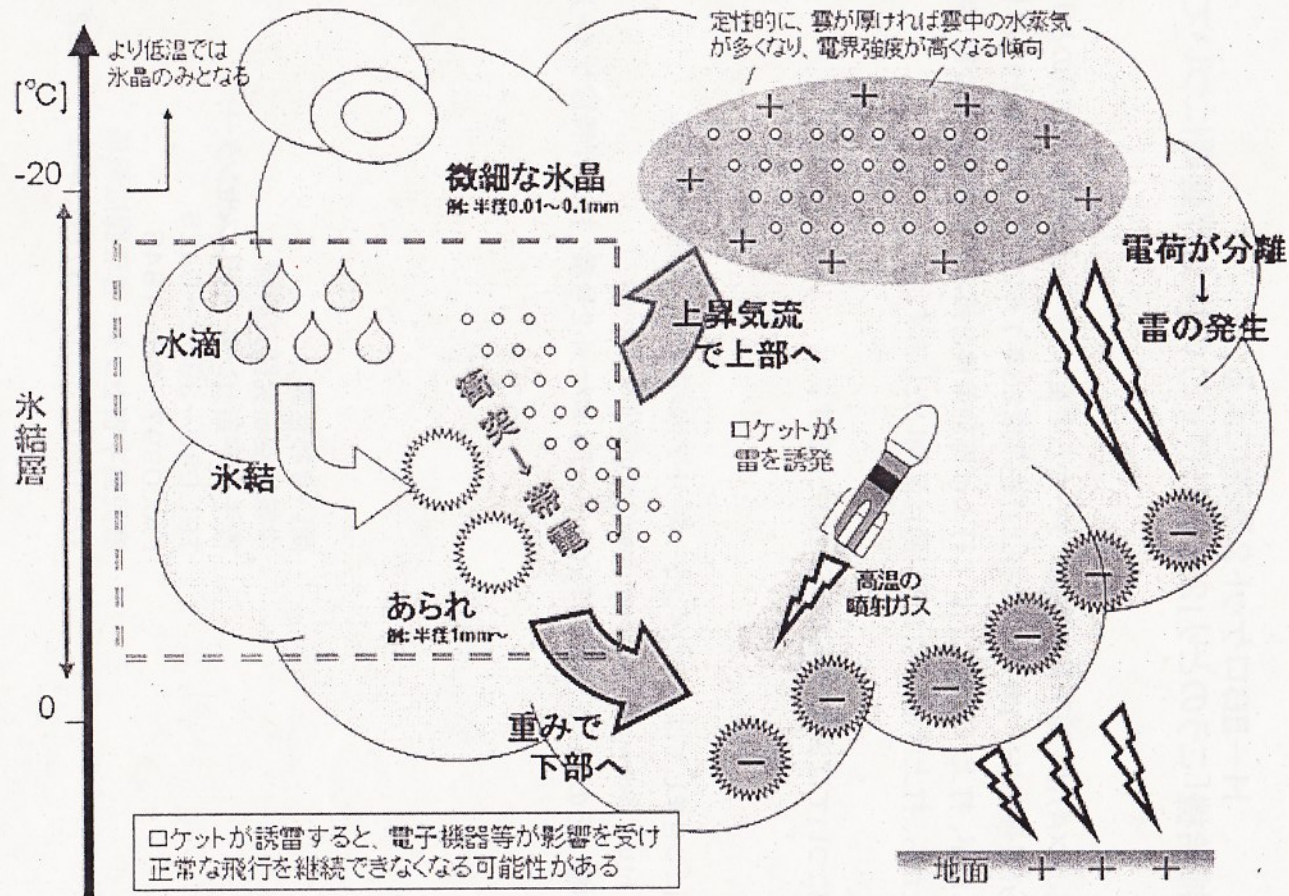
※ 本情報につきましては、次のインターネットアドレスでもご覧頂けます。

【 http://www.jaxa.jp/countdown/h2bf2/index_j.html 】

(「宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機(HTV2)/H-IIB ロケット2号機 打上げ特設サイト」)

問い合わせ先：
宇宙航空研究開発機構
種子島宇宙センター(プレスセンター)
TEL:050-3362-6425
FAX:0997-26-1843
鹿児島宇宙センター管理課広報係
TEL:050-3362-3796、4421、6582

打上げ天候制約(氷結層を含む雲)について



<雷に係る制約条件>

- (1) ミナル飛行経路から 20km 以内に発雷が検知された場合、30分間は発射してはならない。
ただし、発射時にミナル飛行経路から 20km 以内に雷雲、積雲及びかなとこ雲がない場合はこの限りではない。
- (2) 発射時15分間は、射点近傍の地表電界強度が -2kV/m 以上、 $+2\text{kV/m}$ 以下の範囲にあること。
- (3) 射点を中心として半径10km以内に雷雲のないこと。
- (4) ミナル飛行経路が以下を通過する場合には発射を行わないこと。
 - (a) 雷雲、積乱雲及びかなとこ雲から 20km 以内
 - (b) 氷結層を含み、鉛直の厚さが1.8km以上の雲
 - (c) 雲頂高度3km以上の雲を伴う寒冷前線やスコールライン

H-II Bロケット2号機による 宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機 (HTV2) の 打上げについて

打上げ日時・場所

○ 打上げ予定日及び時刻

平成23年1月20日(木) 15時29分頃(日本標準時)(※1)

(打上げ予備期間:平成23年1月21日(金)～平成23年2月28日(月))(※2)

(※1)最新の国際宇宙ステーションの軌道により決定。

(※2)予備期間中の打上げ日および時刻については、国際宇宙ステーションの運用に係る国際調整により決定。

○ 打上げ場所

宇宙航空研究開発機構 種子島宇宙センター 大型ロケット発射場

打上げの目的及び概要

H-II Bロケット2号機に搭載した宇宙ステーション補給機2号機(HTV2)により、国際宇宙ステーション(ISS)(※3)の運用に必要な物資の補給を行う。

平成21年9月に、H-II Bロケット試験機/宇宙ステーション補給機(HTV)技術実証機の打上げに成功。今後、年1機程度の頻度で合計7機(技術実証機を含む)の打上げを予定。

(※3)国際宇宙ステーションは、地球周回軌道(高度約400km)上の有人基地で、日本、米国、欧州、カナダ、ロシアの5極共同による国際プロジェクト

○ H-II Bロケット

官民共同で開発。我が国の基幹ロケットであるH-IIAロケットをベースとし、能力を増強。
大型衛星等の打上げに対応し、国際競争力を確保。
(静止衛星打上げ能力約8トン)

○ 宇宙ステーション補給機「こうのとり」(HTV)

ISSを運用・利用するために必要な水・食料・実験機器等の物資を補給するという我が国の国際的な責務を履行するため、我が国の宇宙産業の先端技術を結集して開発。

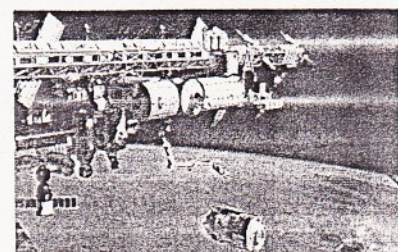
有人施設であるISSに結合するため、高い安全性・信頼性を有する輸送手段であり、将来必要となる軌道間輸送技術を習得。



HTV
全長:約10m
直径:約4.4m
質量:約16.5t

H-II Bロケット (イメージ)

全長:約56m
直径:約5.2m(第1段部分)
質量:約530t(HTV含まず)



ISSへ接近する「こうのとり」(イメージ)